

かぐらおが

第 41 号

昭和59年9月1日

編集 旭川医科大学
 厚生補導委員会
 発行 旭川医科大学教務部学生課

(題字は前学長 山田守英氏)



(写真撮影 第5学年学生 中里友彦)

常磐公園

夏の夜の夢……………山村晃太郎… 2	第27回東日本医科学生総合体育大会(夏季)
保健管理センターの相談業務案内…………… 3	弓道部門、旭川で見事 初優勝ノ…………… 6
第10回医大祭	研究室紹介……………土肥 聡明… 7
第10回医大祭を終えて…………… 5	課外活動短信…………… 8
卒業生の動向…………… 4	窓外……………松嶋 少二… 8
第31回北海道地区大学体育大会…………… 6	



夏の夜の夢

山村晃太郎

赴任してまたたくうちに一年の歳月が過ぎ、また大正橋の上から湧き立つ雲間に残雪をいただく、大雪連峰を望見する夏の季節がめぐってきました。

さてこの間小生何をしたかと問われると、日々の学校生活に慣れるのに夢中だったとしか返事のしようがありません。実験機材も新しく集め、セットしなければならなかったわけです。しかし幸にして、本学の基礎教授御一同の厚い御支援を得て、少しずつ機材も集まりはじめ、本年に入ってからポツリポツリ仕事も開始しました。それで、まだ自分の研究室の現況を語って紙面を埋める程度に至っておりません。それでこれとはなれて少々研究について、愚考を思いつくままに語ってみたいと思います。

さて小生が国鉄にいた時に聞いた話に次のようなことがありました。中央線国立にある鉄道技術研究所——これは新幹線開発のために作られたものですが、鉄道輸送技術全般の色々なことをやっている——の研究員の一人で、生鮮食品の輸送という目的で、鮮魚の鮮度の低下具合をチェックするという役割を与えられた人間がおりました。毎日朝築地の魚河岸に行き、鮮魚を仕入れ、研究所で包丁をふるって切身を作って時間経過を追って、品質のチェック（これは他の人の仕事）する仕事をやっていたわけです。その内でこの人の担当は、魚を仕入れて、切身を作ることにあった由、毎日毎日飽きもせずかなり長い間（何年も）、単調なこの仕事のみやっていたわけであり、その成果については知るところがありませんが、上司に仕事がマンネリで、ややイージーであるとされ、仕事中止を命じられ、その後当人は研究所から国鉄の現場に配置換えをされたとのこと。この話の中には、研究計画全体の展望にあずかることも許されず、片隅の部品のごとく働かされる巨大研究所（当時職員2,000人）の末端研究員の立場がよく浮彫りされていると思われます。その上、松平名所長以下よく全員一致して、世界に誇る新幹線を実用—5分おきに1,000K米以上を運用させることは世界中で真似はできない—させた研究所ですら、国鉄幹部の命令でしばしばテーマの変更があり、せつかく与えられたテーマになじみ、仕事を始めつつある若い研究員を憤慨させることが時折あるのは事実でした。上述のことで生鮮食品の鮮度を落さずに輸送することは、永遠のテーマであると考えられるのですが、医学研究と異なり、工学の世界では中間段階のプラント実験をやらなければならず、そのためかなりの金を喰うので、研究中止をしなければならぬことが時々あることにはなります。それにしても金を出す側は日本では少々気が短かいのではないかと思います。

エールリッヒ—秦のサルバルサンの発見は606号という通り、606回のテストでようやく有効な駆核療法剤を見出したという伝説がありますが、この成功はひとえに「

物結合せざんば作用せず」の信念をドグマのように振りかざして、研究を進めさせたエールリッヒが偉いのか、それともこの実験を飽きもせず、執念深く失敗にもめげず繰り返した日本人秦が偉かったのか、少なくとも日本の研究所では先の見えない仕事に何百回も失敗を認めることには我慢ができないでしょう。名コレクターの許で鈍と根の持主がいてこそ仕事は成功するのだと思われま

す。またここで大正橋の上からの話に戻りますが、こちらからみえる医大の建物は他にコンクリート建築がないだけに余計に巨大な白い建物にみえます。旭川市民の中には日夜あそこで研究が行われているのだらうと何か神秘的にみている人もあります。さて、私も研究生活に入る前は、研究生活とは何か神秘的に考えたものです。ともかく、私共は自分の仕事について誇大宣伝するのは何か嫌味であり、仕事をコツコツやって、その成果に対しては謙虚であることと、いわれて育てられてきた覚えがあります。とはいっても他の人からみたならそうでもないのかもしれませんが、しかしこの点控え目にするということについては分子生物学を展開した元祖、ワトソンの自伝的出世談「2重らせん」、脳のペプチド、ホルモンの発見の競争レース（ギヤマンとシャリー）を書いた「ノーベル賞の決闘」等を読むと、この夏の暑さなど忘れてしまう気がします。欧米では大発見をして、ノーベル賞の栄冠を手にしよとあたかも若い企業家が大会社を興し、産業界を支配せんとするのと同じような野心と欲望をひきつけて、すさまじい精力と努力をかたむけて科学界に入る若いライオンがいる訳です。一読してその積極性には目をむくのですが、成功欲の深さにはいささか食当りがする気がします。しかし考えてみれば科学といっても、人間の営みの一つであるわけだから、競争社会である欧米の社会の断面をあらわしているに過ぎないのでしょうか、科学を新しく生み出すことより欧米からその成果を導入して応用することでよかったのですから、そこで研究者に要求される資質は、日本では欧米とは違っていたのかも知れません。研究に限らず、企業でもあるいは商業でも何か新機軸を出すとしたら、そのためには人間に精力と野心とを要求することになるのだと思

す。この記事をお読みになる本学の若い人達に望みたいことは、研究者になりたい人に要求される資質は、格別に頭の回転が早いとか、あるいは成績が良いということではなくて失敗にくじけない粘りとか、ある種の鈍さ、頑張りや野心さえあれば、もっともこれだけ揃ったら人生何でもチャンピオンになれるでしょう。科学研究に従事するのに格別な資質があるわけのものでもないと思

して下さいということをお望みます。終りが少々PRになってしまいました。これが私共の夢です。

(衛生学 教授)

保健管理センターの相談業務案内

本学に本年度から保健管理センターが設置され、学生の保健管理に関する業務をセンター（福利厚生棟2階）において5月1日より保健婦が窓口となって内科を中心に相談業務を開始しました。

また7月より、眼科、耳鼻咽喉科、整形外科、精神科神経科の4科についても相談に応じることにしました。

センターにおける健康相談日時等については次のようになっています。

◎ センターにおける業務時間等

業務時間 平日 8:30～17:00

土曜 8:30～12:30

窓口担当員 玉川 憲子（保健婦）

◎ 健康相談日時

相談内容	相談日時	医師	相談場所
内科	毎週水曜日 12:00～14:00	吉田征子	保健管理センター
精神科神経科	毎月第1水曜日 12:00～14:00	猪俣光孝	精神科神経科外来
整形外科	毎月第2月曜日 12:00～14:00	梅藤千秋	整形外科外来
眼科	毎月第3月曜日 14:00～16:00	門正則	眼科外来
耳鼻咽喉科	毎月第4木曜日 12:00～14:00	高橋光明	耳鼻咽喉科外来

※希望者については予約制とし相談日の前日までにセンターに申し出ること。

旭川医科大学保健管理センター規程

(趣旨)

第1条 この規程は、国立学校設置法施行規則（昭和39年文部省令第11号）に基づき、旭川医科大学保健管理センター（以下「センター」という。）の組織及び運営について、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、本学における保健管理に関する専門的業務を附属病院との緊密な連携のもとに行い、もつて学生及び職員の健康の保持増進を図ることを目的とする。

(業務)

第3条 センターにおいては、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一、保健管理計画の企画及び立案
- 二、定期及び臨時の健康診断
- 三、健康診断の事後措置等健康の保持増進について必要な指導
- 四、健康相談及び精神衛生に関する指導・助言
- 五、学内環境衛生及び伝染病の予防に関する指導・助言
- 六、保健管理に関する調査研究
- 七、その他保健管理について必要な専門的業務

(職員)

第4条 センターに、次に掲げる職員を置く。

- 一、所長
- 二、医師
- 三、カウンセラー
- 四、技術職員
- 五、その他必要な職員

(所長)

第5条 所長は、センターの業務を掌理する。

2 所長は、本学の教授をもつて充てる。

(運営委員会)

第6条 センターの運営に関する事項を審議するため、旭川医科大学保健管理センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第7条 センターの事務は、教務部学生課において処理する。

附則

この規程は、昭和59年4月12日から施行する。

旭川医科大学保健管理センター運営委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、旭川医科大学保健管理センター規程（昭和59年旭医大連第6号）第6条第2項の規定に基づき、旭川医科大学保健管理センター運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について、必要な事項を定める。

(任務)

第2条 委員会は、旭川医科大学保健管理センターの運営に関する事項を審議する。

(構成)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもつて構成する。

- 一、所長
- 二、医師
- 三、カウンセラー
- 四、厚生補導委員会委員のうちから2人
- 五、教務委員会委員のうちから2人
- 六、附属病院運営委員会委員（診療科長）のうちから2人
- 七、総務部長
- 八、教務部長

2 前項第4号から第6号までに掲げる委員は、教授会の議を経て、学長が委嘱する。

(任期)

第4条 前条第1項第6号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、所長をもつて充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第6条 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ議事を開くことができない。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員長は、必要があると認めるときは、委員会の承認を得て、委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴取することができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、教務部学生課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附則

この規程は、昭和59年4月12日から施行する。

卒業生の動向

第77回医師国家試験で、本学から97名（第6回卒業生95名）受験し、96名が合格、（昭和59年5月17日付け厚生省の発表）合格率99.0%で全国国公立大学では2位の成績であった。

卒業生の動向は次のとおり。

（学生課）

※ 勤務先病院名、大学名のないものは本学である。

第10回医大祭

準備が出遅れ開催が危ぶまれた第10回医大祭も実行委員の頑張りや連日の好天に恵まれ、「10年目の脱皮ノやるぞガンガンー限りなき成長を目指してー」をテーマに6月14日(木)の仮装さきがし・前夜祭で幕を開けた。一般公開日の6月16日(土)・17日(日)には映画会、キタキツネ講演会、プロレショーなどの体育館企画、はりぼてコンクール等多彩な催しがあり、約5,000名の一般市民が訪れ、医学展・模擬店等も賑わいを見せた。また、3年振りに後夜祭も行われ盛況のうちに幕を閉じた。

(学生課)



第10回医大祭を終えて

第10回医大祭実行委員会

“目まいのしそうな偶然の淵から共に学ぶことになった私達である。けれども語り合う言葉が互いの琴線に響き合う、そんな感動を持ったことはないか。それは一つの空間を共有する私達の特権ではないだろうか。騒然とした日常生活の時間の中から「大学祭」の時間を切り出し、埋もれかかったその特権を掘り起こし、語り合いを楯子として私達の不等式 $1 + 1 > 2$ を成立させようではないか。”(第1回医大祭実行委員会アピール)

“大学とは、私達学生にとっては私達自身の生き方をみつけその自分の生き方を実現できるだけの専門的な能力を身につけることができることである。あらゆる学生活動はすべてこのことを基本としている。……大学生の幼児化ということが言われている。社会全体がただ直接役立つもののみを求めて「どう生きるべきか」といった根本的なことがらをそれが直接役に立たないということで軽視している……”(第6回医大祭総括より)

今回の大学祭の出発点はこのあたりにあった。例年なら前年末にも動きの始まる実行委員会が新学期が始まっても組織されていないという異常事態。「こんなことな

らいつそ大学祭なんかやめてしまえ」そういう声もある中、それではいけないと学生会執行委員長を実行委員長に立て、本来の手続きを経てクラス、クラブから委員が選ばれようやく実行委員会が組織された。

毎年新しい企画を加え、華やかさを増し、マンネリ化をそれほど感じさせずにきた医大祭。しかし今回は完全に足元をすくわれた恰好となった。実行委員自身が学祭を終えて「やってよかった。来年もまたやりたい。」そう思えなかったのはなぜなのか。何か大切なものを忘れていたのではないか。そんなことを考えさせられた。

何のために大学祭を行うのか。大学祭とは何なのか。学生生活とは何なのか。ひいては人生とは……?

「まつり」である以上みんなが明るく楽しめるものでなくてはならない。しかし少なくとも大学という公的な教育機関において、あれほどの時間と労力と費用をかけて行う行事が、「やりたい者がだけが勝手に好きなことをやっていればいい。」では済まないだろう。一人でも多くの学生が参加し、かつ一人一人が自覚と目的意識を持ち、また社会の中での自分という者も見つめ直す必要があるだろう。さらに進んで、自分の行動ひとつひとつの、人生というスケールの中での意義付けが明確にされていけば、この大学祭という実に多様な側面を持つ行事にどこかで積極的にとり組めるはずである。日頃はばらばらの個々の力を与えられた共通の舞台の上で発揮する時、全体として大学祭という壮大な交響曲が奏でられるわけである。そしてその時、個々の感情の中に“互いの琴線に響き合う”何か生まれ、それは人生の何たるかをもかすかに暗示してくれるかもしれないのである。

長くなったが以上のようなことを改めて反省し、動き始めた第10回医大祭。未経験者の多い寄せ集めの実行委員会、明らかなスタートの出遅れ、一時はどうなるかとも思われたが、実行委員を含む多くの学生のがんばり、また教職員のみなさんの多大の協力により、よい結果を得ることができたように思う。突如出現した巨大な自動販売器、玄関前に立ち並んだ「はりぼて」、歓迎のゲート、それらが今回の学祭を象徴していたようだ。医学展も数を増し、クラブ単位の参加も模擬店から一歩進んだものもみられた。運動会・スポーツ大会ではみんなが楽しんだ。講演会も小規模ではあったが内容は極めて充実していた。もちろんコンサート中止、その他問題は山積されている。しかし今回のテーマ「10年目の脱皮ノやるぞガンガンー限りなき成長を目指してー」に込められた思いの前半部は達成されたようだが、後半部“成長”はこれからの問題である。何をしているのか自らの足元をじっくりと見据えた上で活動を行っていけば、必ず多くの問題点も改善されていくはずである。

すでに胎動を始めた第11回医大祭に期待する。

第 31 回 北海道地区大学体育大会

第31回北海道地区大学体育大会は、北海道大学が当番校となり7月7日から9日までの3日間、全道43単位大学から4,600余名が参加し各会場で熱戦を繰り広げた。

本学からは13種目に151名が参加、サッカーが惜しくも3位、陸上競技5位（5年三宅100m1位・走幅跳2位、3年野津400m2位）、バレーボールがベスト8進出と各種目に善戦健闘したが、総合成績は、例年に比べてふるわず男子24位、女子18位であった。

(学生課)



第31回北海道地区大学体育大会成績一覧

種目	順位	優勝	準優勝	3位	旭医大
陸上競技	男	函教大	旭教大	札学院	5位
	女	道女短	函教大	札教大	12位
準硬式野球		釧教大	駒沢大	函教大 札学院	2回戦敗退
軟式庭球		北大	室工大	道工大 酪学園	2回戦敗退
バスケットボール		道都大	北学園	北工大 酪学園	1回戦敗退

バレーボール		道都大	専修短	帯畜大 室工大	準々決勝敗退
サッカー		北大 旭教大	——	旭医大 旭川大	3位
バドミントン	男	北学園	札学院	道工大	1回戦敗退
	女	道女短	札教大	栄養短	々
剣道	男	北大	東海大	釧教大 道葉大	予選リーグ2位
	女	道女短	苫駒短	札教大 旭教大	1回戦敗退
弓道 (女子は オープン)	男	札学院	帯畜大	北星学	10位
	女	樽商大	北星学	室工大	8位
総合	男	北大	道都大	北学園	24位
	女	道女短	札教大	北星学	18位

第27回東日本医科学生総合体育大会(夏季)

弓道部門、旭川で見事 初優勝!!

第27回東日本医科学生総合体育大会(夏季)は、聖マリアンナ医科大学が主管校となり7月21日～8月10日まで行われた。なお、弓道部門においては旭川医大に移管され7月24日～7月27日の4日間、旭川市立総合体育館において行われた。

本学からは19種目372名が参加しており、弓道では東北大学と欠中の末、見事初優勝を飾った。そしてバスケットボール女子でも敗者復活戦より勝ち進み初優勝を勝ちとった。陸上競技では、昨年に引き続き総合優勝で二連覇をなした。

また、個人戦では卓球(W)で4年大沢・高橋組が準優勝、弓道女子で3年笠井さんが優勝、ゴルフで6年村上君が準優勝と全種目に善戦健闘、総合成績は35大学中5位と好成績であった。

(学生課)





第27回東日本医科学生総合大育大会(夏季)成績一覧

種目	順位	優勝	準優勝	3位	旭医大
陸上競技		旭川	新潟	筑波	優勝
準硬式野球		自治	筑波	福島	4位
硬式庭球	男	自治	千葉	順天	3回戦敗退
	女	女医B	順天	福島	3回戦敗退
軟式庭球		群馬	弘前	東北	予選リーグ敗退
卓球	男	千葉	福島	自治	準々決勝敗退
	女	福島	千葉	女医A	予選リーグ敗退
バレーボール		筑波	自治	東北	準々決勝敗退
バドミントン	男	自治	東北	新潟 新潟	準々決勝敗退
	女	札医	慈恵	横市	準々決勝敗退
サッカー		東北	山梨	昭和	3回戦敗退
バスケットボール	男	自治	弘前	慶應	3回戦敗退
	女	旭川	日大	順天	優勝
柔道		聖マ	札医	新山 新潟	予選リーグ敗退
剣道		岩手	慈恵	札医 旭川	3位
弓道		旭川	東北	福島	優勝
空手道		日大	東医	札医	2回戦敗退
水泳		東北	日大	福島	
ゴルフ		北里	旭川	順天	準優勝
総合		自治	東北	福島	5位

研究室紹介

■ 心理学 ■

土肥 聡明

心理学研究室は、昭和48年、本学の設置と同時に開設された。発足当初は、道立精神衛生センター指導副部長であった岩淵次郎現教授が、大学設立のための大量の困難な仕事による多忙さと、教育器材不足の中で、1人で今日の研究室の基礎作り、実験心理学実習の態勢作りにあたった。日常生活での雑談、あるいは酒の席などで、当時の苦勞が話題になることが、たまにある。研究室の態勢が整ってから加わった者にとっては、「今は昔」の物語で、想像することしかできないが、大変な苦勞をなされたようである。その後、実習室、各種の実験実習器材も次第に整備され、スタッフ数も増えて、教務職員1名、助手1名、計3名の研究室となったが、研究室としては極めて小規模である。

研究活動は、研究室全体として、臨床心理学的基調が濃い。特に、岩淵教授は児童相談所、精神衛生センターにおける豊かな臨床経験を背景に、幼児、児童、思春期前後の少年少女の社会適応、精神衛生全般にわたる諸問題に深い関心と、強い研究意欲を燃やしておられる。そして、特に治療の人間関係の成立過程の基礎研究、対人認知過程の研究、さらに各種心理検査の臨床的適用に関する研究等が続けられてきた。また、今年5月より着任されたばかりの井手正吾教務職員は、ロールシャッハテストに関しては、日本の大御所である片口安史先生のもとで、高度な専門指導を受け、臨床経験を重ねており、当研究室に新風をふき込むものと期待されている。以上の臨床心理的研究に加え、筆者により、社会心理学の立場から、相互依存的な社会場面における協力、競争、個人主義、あるいは利他主義とよばれるような、社会的行動に関する研究、さらに、社会場面で観察される行動現象の原因をどのように認知し、意味づけるかを明らかにしようとする帰属過程に関する研究が行われている。

以上の研究活動の他に、精神神経科、その他の科より患者の心理判定の依頼も寄せられている。また、岩淵教授は、旭川の「いのちの電話」のスタッフとして、相談員の指導にもあたられている。

研究室そのものが小さいことから、研究室単位で何かをすることは少ないが、一般教育の他の研究室との交流はさかんである。岩淵教授をはじめとして、囲碁の好きな先生方が多く、昼休みともなると、石の音がひびくことが多い。また夜ともなると、(たまには明るいうちから?) 芳わしい香がただよふこともある心理学研究室であり、精神衛生上の実習が常に行われているといえるかも知れない。

(心理学 助手)

課外活動短信

陸上競技部

9/28~9/30 北海道学生選手権(兼神戸ユニバーシアード選手選考会)(於 札幌円山陸上競技場)
400mH (3年)野津 57"65 3位
やり投 (3年)横田 48M51 6位

医療研究会

3/6~3/8 フィールドワーク(紋別市沼の上地区)

ギター部

3/4 定期演奏会(於 旭川市民文化会館小ホール)

映画研究会

ビデオ上映会

9/ 「風の谷のナウシカ」
3/ 「アイコ十六才」



庭の樹木たち

旭川では5月下旬からのほぼ1カ月が樹木の開花の最盛期で、家の庭でもこの期間はレンギョウ、ユキヤナギ、ヤマブキ、ツツジ、ボタン、コデマリ、ユスラウメ、ライラック、シャクナゲなどが色とりどりの花を咲かせるが、8月ともなると樹木たちの花期はほとんど終わってしまい、わずかにロウバイ、ハナゾノツクバネウツギ、アジサイ、ムクゲなどの花が庭のごく一部を飾るにすぎない。夏季の庭は花が少なく寂しいが、樹木たちが1年のうちで最も旺盛に光合成を営むこの季節は緑が大変美しい。緑といても樹種によってそれぞれに独特の色合いがある。黄緑に輝いているのはイトヒバ、シノブヒバ、クジャクヒバなどである。同じヒノキの仲間でもミヤマビャクシンは白緑である。明るい緑色はカツラ、コブシ、シラカバなどで、深緑はイチイである。緑の色調の中でひととき目立つのはヒムロヤブゲンストーヒなどの針葉樹で、その淡い青緑色は清流の水の色を思わせる。同一種の木でも光線の加減や枝の重なり具合で葉の色調は変化する。葉の形態は樹種によって様々であるから、いろいろの樹木たちの葉のあつまりは複雑な模様を描く。緑の交響楽である。地球上で木々の緑に匹敵する程美しいものは他に類がないように私には思える。人は緑の環境に身を置くことで心身が疲れから解放され、全身に充実感がみなぎるのを感じる。緑色光線は網膜や中枢神経に対し疲労から回復させる作用を有するようである。樹木から発散される香りもまた人に活力を与えるといわれる。最近森林浴という言葉がしばしば用いられる。植物が有

する芳香はフィトンチッドと呼ばれるが、これは植物の葉などから出されるテルペンという物質を含む。テルペンは中枢神経系や循環器系に対しいろいろの生理作用を有するようである。放出されるテルペンの量は気温と関係が深く、夜間よりも日中にまた冬よりも夏に多い。

学習百科図鑑(小学館)によれば、植物の歴史は古く、その祖先は今から30億年以上も前に地球上に姿を現わしたが、陸上植物の出現は約4億年前といわれる。最初の陸生脊椎動物と考えられるイクチオステガという両生類の祖先は3億5千万年前に存在したと推定されている。地球をおおう空気が植物からはき出される酸素を含むようになってはじめて陸生動物のための環境ができ上がったと考えられる。人が植物を大切に思う心は、このような動物と植物の根元における関係に端を発するのも知れない。私もおそらくそのような理由で本能的に植物が好きなのであろう。私が現在の家に住むようになったとき、外から家が見えなくなる位に周囲を樹木で包囲する計画を立てた。その日から私は日旺庭師となった。園芸市で小さな苗木を買ってきては1本1本自分で植えた。これらの樹木たちは自分の子供のようなものだ。遠方に旅行するときは、その土地の植木屋の所在や園芸市の開催の有無を調べ、運搬可能の大きさの木を求めるのが習慣となった。庭の樹木たちのうちヒュウガミズキとオウゴンシノブヒバはそれぞれ大阪と盛岡の園芸市で手に入れたものである。暖地で購入した樹木は冬期間の管理が大変であるが、越冬に成功したときの喜びは大きい。これらの木は幸いにも活着し、旭川の厳しい気候に馴化しつつある。庭の樹木たちはみんなまだ若くて小さい。しかしあと数年もすれば現在の2倍以上に成長し、その頃には家の周囲をおおい囲む理想の形にかなり近づくであろう。樹木たちが2階の窓位の高さまでになったら、家中の窓を全開して居ながらにして森林浴を楽しみたい。これが私の夢である。

(解剖学第二講座 教授)